

大会名称: 第3回FIBA U-17男子バスケットボール世界選手権大会

開催場所: Al Shabab Arena(アラブ首長国連邦・ドバイ)

試合区分: No. 117 男子 予選ラウンド・グループB コミッショナー: Zulfikar Hussein KARIM (TAN)

期 日: 2014(H26)年8月11日(月)

主審: Petri MÄNTYLÄ (FIN)

開始時間: 14:15

副審: Yi-Chih CHUNG (TPE), Americo Javier RODRIGUEZ MOYA (VEN)

終了時間: 15:55

日本 (通算0勝3敗)	● 51	12 -1st- 22 13 -2nd- 27 14 -3rd- 27 12 -4th- 20 -OT1- -OT2- -OT3-	○ 96	フランス (通算2勝1敗)
----------------	---------	---	---------	------------------

第3回FIBA U-17男子バスケットボール世界選手権大会が大会3日目。日本はグループラウンド最終戦フランスと対戦。

1ピリオド

日本、フランスともにハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。フランスは高さを生かしたポストプレイで連続得点。それに対して日本も#14八村のローポストからのシュートで連続得点。日本はフランスのポストプレイに、ショートコーナーでダブルチームを仕掛けるが、フランスは確実に3Pを決めてくる。その後#5林がドライブで得点するも残り3分 8-15と引き離される。その後、3Pシュートをチェックするもリバウンドを取られセカンドチャンスにドライブで得点され、12-22で1ピリオド終了する。

2ピリオド

フランスはドライブやポストプレイで得点を重ね続ける。日本は#14八村のミドルシュートで対抗するが点差が開く。ディフェンス強化としてインサイドのカバーや、ローポストのダブルチームをするが、アウトサイドパスを出され3Pで得点され、開始3分経過したところで14-28となり日本がタイムアウト。その後も点差が広がり、残り5分で2回目のタイムアウトを取る。残り4分から、オールコートプレスを仕掛け、日本も加点するが前半を25-49で折り返す。

3ピリオド

両チームハーフマンツーマンでスタート。#10牧、#14八村のジャンプシュートや#15平岩のドライブ、#7武藤のシュートなどで対抗する。フランスは、高さを生かしたリバウンドシュートや3Pで得点する。残り4分40秒、37-70となったところで日本はタイムアウト。その後#12軍司がフランスの高さのあるリバウンドにアタックし、奪い取ったり速攻を防いだりと奮起し、チームが盛り上がる。3ピリオドを39-76で終了する。

4ピリオド

#15平岩のドライブからの得点で先制。日本は高い位置からディフェンスプレッシャーをより強めオフェンスチャンスを探り、#14八村や#13ナナーのシュートで得点する。残り4分30秒、日本は、オールコートのマンツーマンを仕掛け一矢を報いる。フランスもインサイドのシュートやリバウンドからのシュートを落ち着いて決め、最後は、51-96で日本が惜敗した。

この日#14八村 両チーム通じてスコアリングリーダーとなる27得点をあげる。

次戦より決勝トーナメントに入り、日本は8月12日(火) 14:15(現地時間)より、グループA 1位のアメリカと対戦する。